国土交通省 国土技術政策総合研究所
〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地
Tel.029-864-2211

立原庁舎
〒305-0802 茨城県つくば市立原1番地
Tel.029-864-3742

横須賀庁舎
〒239-0826 神奈川県横須賀市長瀬3丁目1番1号
Tel.046-844-5006

http://www.nilim.go.jp/

平成19年6月
デザイン:クリエイティヴ アダック(株)

このパンフレットは、非木材紙ケナフ100%の紙を使用し、大豆油を配合したインキで印刷しています。

なるといいな研究所

“なるといいな”の
芽を育てています。

国土技術政策総合研究所

「地震や台風に負けない強い家に住みたいな」

「明るくて、安心できるまちでくらしたいな」

みんなも“なるといいな”って思うことあるよね。

世の中はそんな思いでいっぱいなんだ。

それぞれの願いはちょっとずつちがうけれど、

きっと、どこかでつながっている。

「みんなが幸せにくらせるといいな」

“なるといいな研究所って知ってる?”

みんなが幸せにくらせるように、未来の生活を考えて、

日本の国土をさまざまな角度から

研究している研究所なんだ。

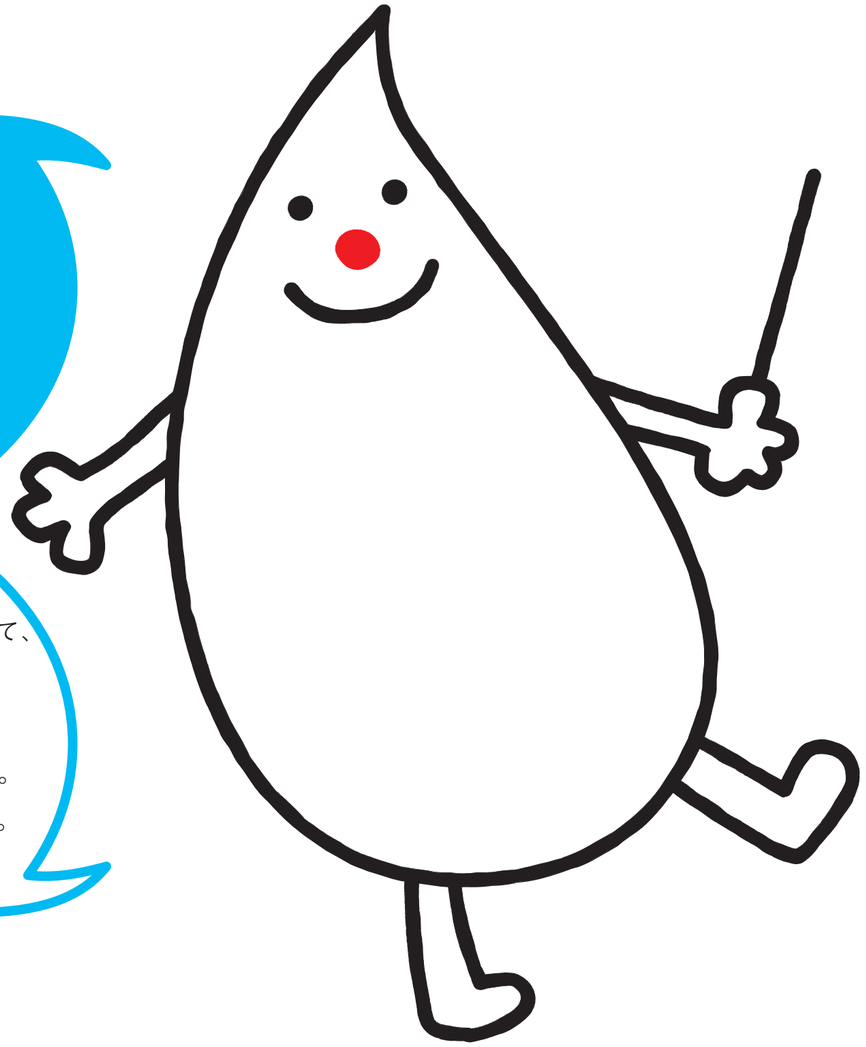
ほんとうの名前は「国土技術政策総合研究所」。

長い名前だから、「国総研」って呼ばれているよ。

では、どんな研究をしているのかって?

それでは国総研の研究について、

これからお話しするよ。



こんなところ

元気な日本をつくるために、

“なるといいな”の種をまいています。

きみの住んでいるまちをよくみてごらん。
「不便な道路だな」とか「この川、危ないな」と
思ったことはないかな?
ほかにも「地震がきたらどうしよう」という不安、
自然や環境のことも気になるよね。“なるといいな”をかなえる国総研は、
日本全体をじっくり観察して、不便な道路、危険な川、
汚れている自然など、いまこの国で起きている問題を調べている。
こうした問題を解決するための
いちばんいい方法を研究するためにつくられたんだ。

やっていること

みんなの声に耳をかたむけながら、

“なるといいな”の芽を育てる研究をしています。

世の中の問題を解決するためには、
たくさんのことを知らなくちゃいけない。
たとえば、渋滞を解消するには道路のことを、
美しい環境をつくるには環境のことを、
きちんと調べて、分析しないと答えが見つからない。
国総研では、道や建物、公園、川、港など
くらしのまわりにある、たくさんのテーマについて、
多くの研究者たちが力をあわせて研究しているんだ。

くらしのなかに

ほら、みんなのまわりにも、

“なるといいな”の芽はすくすく育っています。

ちょっと外に出て、まわりをみわたせば、
国総研の研究がいっぱい。
ほら、自然が豊かな公園。
道路じゃ、事故も渋滞も減っているよ。
みんなの食べ物や洋服を運ぶ飛行機や
船の港も活躍しているね。
国総研の研究はみんなのまわりの陸、海、空の
あらゆるところでいかされているんだね。

くらしの“なるといいな”の研究

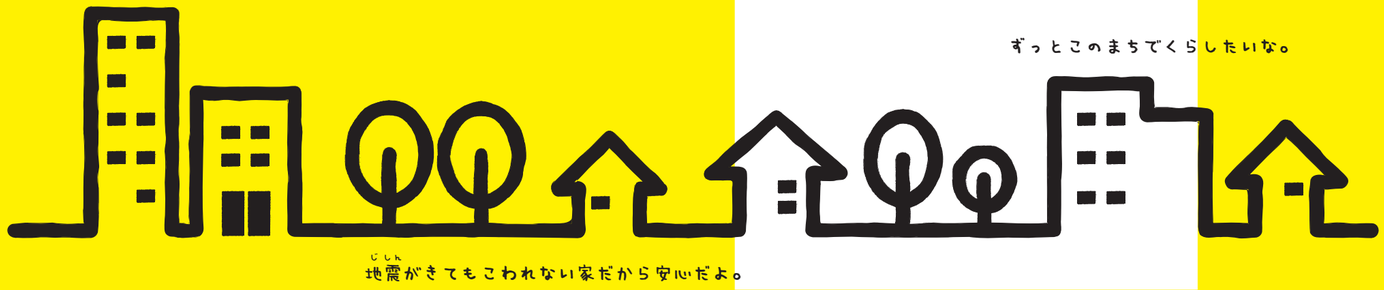
毎日明るく、
安心してくらしたいから。

じょうぶで長持ちする、建物をつくるための研究

阪神淡路大震災を知っているかな？大きな地震によって家や建物が倒れたり、火事が起きたりしてたくさんの人が亡くなってしまった。大地震や火事はいつ起こるかわからない。だから火災や強い地震にも負けない建物の構造や材料を研究して安全にくらしていけるように備えているんだよ。

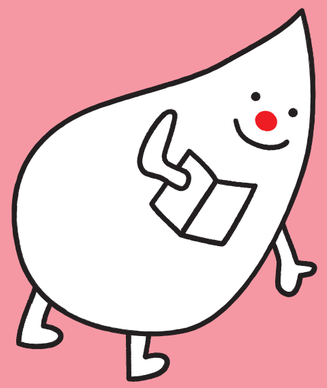
心も体も、気持ちいい家をつくるための研究

「シックハウス」って知ってる？住んでいる人が、頭が痛くなったり、気持ちが悪くなってしまう家のこと。これは、家を建てるときに使った材料や、空気を入れかえるしくみが原因なんだ。住む人がみんな、安心して、健康にくらせるように、その原因を詳しく調べたり、家を建てるときのルールを研究しているんだよ。



社会の“なるといいな”の研究

安全で、
住みやすいまちにしたいから。

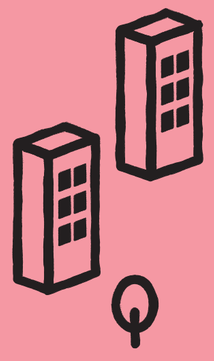


人もクルマも仲良く使える道をつくるための研究

おばあちゃんが買い物に行く途中、歩道の段差で転んでしまったり、目の見えない人が道に迷ってしまったり…。道路には危険がいっぱい。あぶない場所や分かりにくい標識などをなくして、お年よりや身体の不自由な方も安心して歩ける道にしたり、渋滞や交通事故を減らしたりして、みんなが気持ちよく使える道になるように、いろいろな研究をしているよ。

自然災害から身を守るための研究

日本の土地はせまく、山や川が多くて、まわりは海で囲まれているから人々や建物が平野に集まっている。台風、地震だけじゃなく洪水、津波、地滑りや火山の噴火、土石流といった自然災害が起こりやすくなっているんだ。だから、いざというときにも強いまちづくりを研究しているんだ。もし自然災害が起こってしまっても、情報を速く、正しく伝えて、みんなが安全に避難できるようにして被害をできるだけ少なくしようという研究、被害にあってもすぐに立ち直るための研究もしているんだよ。



地球の“なるといいな”の研究

美しい地球を
未来に引きつぎたいから。

いつでもきれいで安全な水の環境を守るための研究

大地にふった雨が、川を流れて海にそそぎ、雲になってまた雨がふる…水は地球をぐるぐる回っている。生き物たちにとって、水は命のみなもと。でもその大切な水が、ぼくたち人間の生活のせいで汚れてしまった。そこで、東京湾などでは、海の水をきれいにして、生き物たちが住みやすい環境にするための研究をしているんだよ。

いつまでも元気にくらすための研究

車に乗って遠くまで短時間で行かれるようになるとお店や会社がまちの周辺に立つようになり、まちの中心にある商店街などに人が集まらなくなってしまう。そこでたくさんのまちを港や空港で結ぶことで人が行き交う活力のある地域にしていく。そんなまちの元気を取り戻す。これも国総研の研究。

かけがえのない地球を未来にバトンタッチするための研究

いま、地球では大変な問題が起こっている。地球温暖化やゴミ問題など、ニュースで耳にしたことがあるかな。でもね、これはテレビの中のできごとじゃない。ぼくたち一人ひとりにもできることがある。毎日のゴミを少なくしたり、エネルギーの無駄づかいを減らしたり、使えるものはリサイクルして何度も使えるようにしたり。“なるといいな研究所”でも、環境にやさしい、いろいろなしくみを研究しているよ。

国総研はどこにあるの？

“なるといいな”の芽は
ここで育てられているよ。

横須賀庁舎

旭庁舎

立原庁舎

研究部のごあんない

国総研の研究チームを紹介するよ。

環境研究部

・道路や川、公園など、自然といつまでも仲良くくらせる、美しい日本の環境をつくるための研究

下水道研究部

・下水をきれいにして川や海を守る研究
・下水から電気や肥料などを作り出す研究
・下水管や下水処理場を長持ちさせるための研究

河川研究部

・洪水、高潮、海岸の浸食などの災害に強い河川、海岸をつくるための研究
・河川の水を開発、利用するための研究
・河川・海岸など水をめぐるより良い環境をつくるための研究
・日本の自然の特長をいかした河川や海岸をつくるための研究

道路研究部

・渋滞や交通事故を減らすための研究
・お年よりや身体の不自由な方も安心して歩ける道の研究
・まちなみや景色にとけこむ道をつくるための研究
・いろいろな機能をもった道路や橋をつくるための研究

建築研究部

・地震や火事に強いじょうぶな建物の研究
・安全で快適なくらしをまもる設備や材料の研究
・長持ちし環境にやさしい骨組みや材料の研究

住宅研究部

・資源とエネルギーを無駄づかいしないすまいと建物の研究
・安全で豊かなすまいの環境づくりの研究

都市研究部

・いつまでも気持ちよくくらせるまちづくりの研究
・自然と仲良くくらせるまちづくりの研究
・災害に強いまちづくりの研究

沿岸海洋研究部

・台風や津波、地震などに強い海岸の研究
・きれいで楽しめる海を守り、取り戻せるようにするための研究
・工場、波止場、砂浜、漁業のバランスがとれた海辺にするための研究

港湾研究部

・大きな船やコンテナがスムーズに行き来する港をつくる研究
・じょうぶな防波堤や岸壁をつくるための研究

空港研究部

・道路、鉄道とつながる便利な空港をつくるための研究
・リサイクルの技術など、環境にやさしい空港の研究

総合技術政策研究センター

・国民が求めるよりよい国土づくりを行うための研究
・安全で品質のよい道・川・建物などを安くつくるための研究
・道・川などをつくるとき、国民に理解を求めてもらえる方法の研究
・今ある道・川・建物などを大切に使っていくための研究
・国土交通省が行う仕事がふさわしいかどうかを判断する方法の研究

高度情報化研究センター

・最先端の情報通信技術(IT)を国土づくりなどにいかすための研究
・道路を快適に、安心して走れるようにするための新しい道路交通のしくみ(ITS)をつくったりみんなに利用してもらうための研究

危機管理技術研究センター

・土砂災害、水害や地震災害などの自然災害の発生を予測し、防ぐための研究
・災害が起こった時に被害をできるだけ小さくするための研究

※組織改編により、現行の組織と一部異なっている箇所があります。ご了承ください。